

～～～～～
ニュース JAFIC EYE №203
令和3年4月のスルメイカ漁況について
～～～～～

1. 4月の全国のスルメイカの水揚げ状況

全国主要港における生鮮スルメイカの水揚量(漁業情報サービスセンター調べ)は162トンで前年同月を2割下回り、4月の過去5年(20116～2020年)の平均265トンを4割下回った。今年の1～4月の累計水揚量は1,583トンで、過去5年間で最も多かった2016年の3,600トンの半分以下であった(図1、表1)。

地区別の4月の水揚量は、九州が61トンで前年同月の9%減、山陰が50トンで前年同月の52%減、北陸・日本海東北が28トンで前年同月の47%増、東海・四国が19トンで前年同月の58%増、三陸・常磐が3トンで前年同月の並みであった(表2)。

2. 日本海のスルメイカの水揚げ状況

スルメイカ漁は端境期を迎え、小型イカ釣り漁業の主漁場は、スルメイカの産卵場周辺である九州北部(対馬～壱岐、福岡)～山陰沖(特牛～湊～恵曇～浜田～境港～越前)の海域に形成された(図2)。島根県以西では、引き続きスルメイカ漁は低調だったが、ケンサキイカ(シロイカ)の漁獲が前年4月と1～4月累計とも2倍とかなり多く、好調であった。

日本海のスルメイカの北上(西からの移動)が例年より遅く、早い年だと能登半島沖には4月下旬には漁場が形成されるが、今期は昨年同様5月6日頃であった。金沢の水揚量は5月12日に入港船35隻が発泡1千箱、14日に70隻・3千箱、19日には84隻3700箱に達したが、昨年の半分の水準に留まった。前年は5月24日に91隻7600箱、25日に90隻1万5千箱を記録した。前年は6月上旬に1200トンのピークがみられた。現在のサイズは、5kg箱で20尾入が1割強、25尾入3割強、30尾入4～5割、バラ1割で、前年同期は20尾入が5%前後だったため、大型個体の割合が今年が多い(図3、4参照)。

なお、新潟では5月15日に1隻が発泡バラ8箱(止物

含む)を初水揚げしたが、それ以降はまだ水揚げがない。2017年は今の時期に新潟で1千7百箱、山形で2千箱の水揚げがあったことを考えると、今年の北上は遅い。

3. 好調だった富山湾のスルメイカ定置網漁もほぼ終漁

前年12月以降好調だった富山湾(富山～石川)のスルメイカ定置網漁は、4月は3月の半分以上の250トンであったが、富山湾内の水揚量だけで、4月の主要港全体の162トンを上回った。なお5月上・中旬の富山湾の水揚量は30トン弱で、ほぼ終漁の様様。[富山県水産情報システム(<http://www.fish.pref.toyama.jp/>)による]。

4. 生鮮のスルメイカの年別水揚量と価格の推移

生鮮スルメイカの主要港における水揚量は、2000～2014年は10万トン前後で推移し、平均価格は200～280円/kgであった。2015年には7万トンまで減少し、2016～2020年は2万6千～3万7千トンとさらに半減した。平均価格は、2016年以降550円/kgとそれまでの2倍近くになり、2019年は644円/kgまで高騰した。2020年は3万トンで前年より水揚量が1割増えたことや、末端が高値に追従できず価格は551円/kgまで15%下げた。2021年1～4月は平均550円/kgとほぼ横ばいである(図5)。

5. 日本海のスルメイカの長期予報について

4月末に水産研究・教育機構が公表した、第1回日本海スルメイカ長期漁況予報によると、5～7月の来遊量は前年並みで近年平均を上回るとされ、主な漁場は本州北部日本海以北で漁期は近年同様とされた。

1調査点あたりの平均採集尾数は18.5尾で、前年(5.3尾)の351%で、近年平均(23.5尾)の79%であった(図6)。2021年の漁期前分布調査では、比較的沖合に小型個体、沿岸に大型個体が分布していた。(図7)

このため、中型いか釣り漁船が出漁する6月後半以降の日本海のスルメイカの漁模様は、好転が期待される。

(水産情報部)

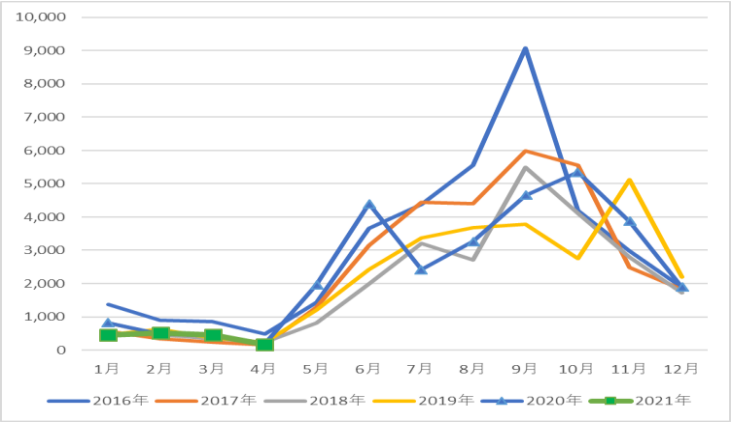


図1. 生鮮スルメイカ月別水揚量(全国): トン(出典: おさかなひろば)

表1. 生鮮スルメイカ月別水揚量(全国): トン

月	16年	17年	18年	19年	20年	21年	16/20平均	21/5年平均比	21/20比
1月	1,369	561	813	463	825	451	806	56%	55%
2月	901	334	463	637	490	518	565	92%	106%
3月	850	241	347	358	438	453	447	101%	103%
4月	481	148	244	247	206	162	265	61%	79%
5月	1,427	1,287	815	1,211	1,964		1,341		
6月	3,657	3,152	1,993	2,417	4,397		3,123		
7月	4,373	4,440	3,208	3,373	2,418		3,562		
8月	5,554	4,409	2,702	3,671	3,259		3,919		
9月	9,081	5,988	5,486	3,791	4,655		5,800		
10月	4,192	5,550	4,107	2,746	5,344		4,388		
11月	2,980	2,475	2,784	5,130	3,869		3,448		
12月	1,877	1,831	1,720	2,192	1,891		1,902		
年計	36,742	30,415	24,680	26,234	29,754	1,583	29,565		
1～4月計	3,600	1,284	1,866	1,704	1,958	1,583	2,082	76%	81%

表2. 生鮮スルメイカ 地区別水揚量: トン

市場名	2021年		2020年		4月比	1～4月比
	4月	1～4月	4月	1～4月		
石巻	2	44	1	228	200%	19%
三陸・常磐計	3	223	3	520	100%	43%
八幡浜	14	61	6	36	233%	169%
東海・四国計	19	94	12	48	158%	196%
魚津	2	52	2	34	100%	153%
小木	7	35	4	39	175%	90%
金沢	19	99	12	128	158%	77%
北陸・東北計	28	293	19	347	147%	84%
浜坂	7	13	3	9	233%	144%
境港	6	142	3	77	200%	184%
浜田	23	146	49	153	47%	95%
下関	11	55	46	157	24%	35%
山陰計	50	364	105	411	48%	89%
唐津	7	64	3	87	233%	74%
松浦	31	267	38	331	82%	81%
長崎	10	92	8	79	125%	116%
佐世保	13	111	8	54	163%	206%
九州計	61	610	67	631	91%	97%
計	162	1,583	206	1,958	79%	81%

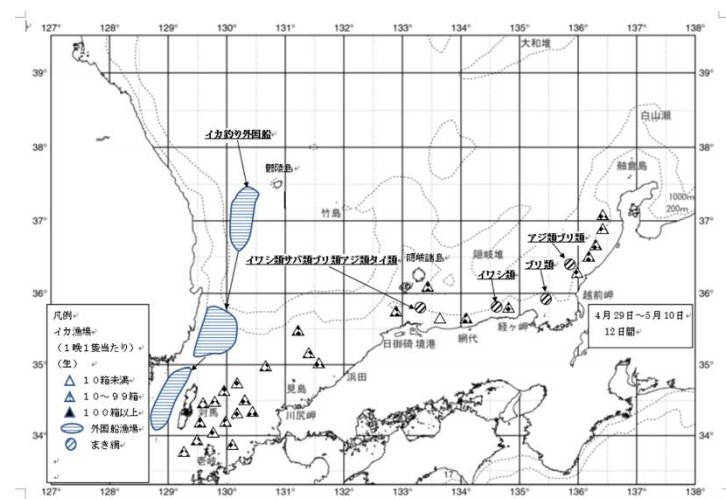


図 2. 4 月 29 日～5 月 10 日の中西部日本海のいか釣り
漁場（出典：JAFIC 境港出張所発行 中西部日本海漁海
況情報）▲：小型いか釣り船の漁場位置

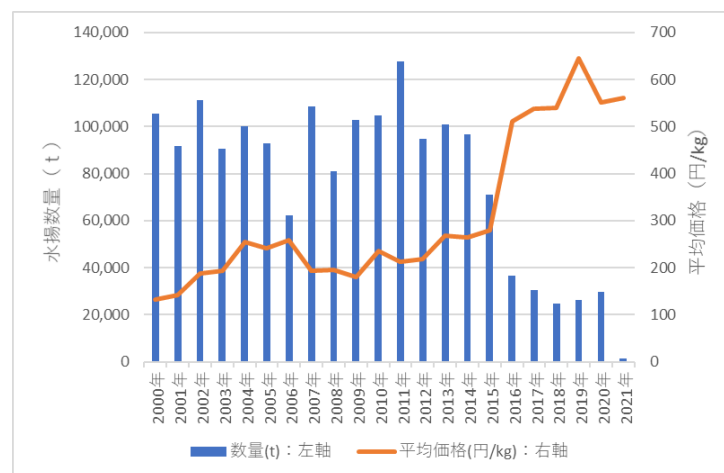


図 4. JAFIC 調査市場（全国）における生鮮スルメイカ
年別水揚量と平均価格

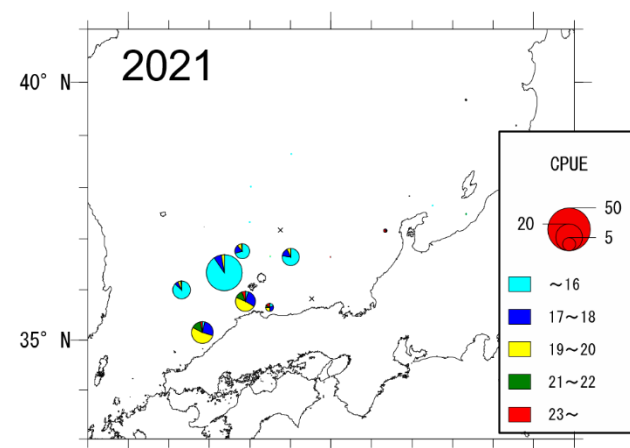


図 6. 2020 年と 2021 年 4 月のスルメイカ漁期前分布調査結果

●の面積はCPUE（釣り機1台1時間あたりの採集尾数）、各色は各外套背長範囲（cm 台）の比率、×は採集されなかった調査点をそれぞれ示す。（予報会議資料）。

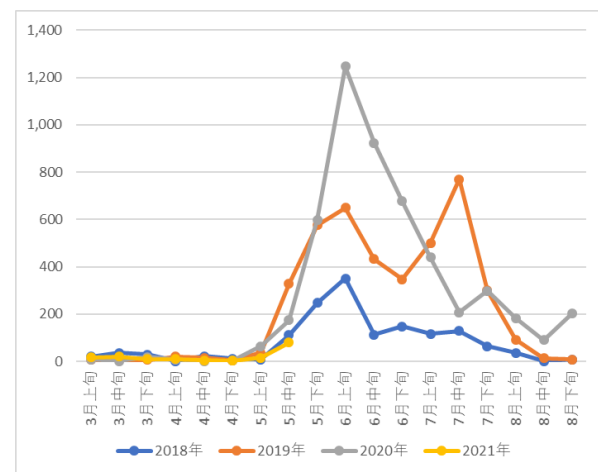


図 3. 金沢における生鮮スルメイカ旬別水揚量：トン

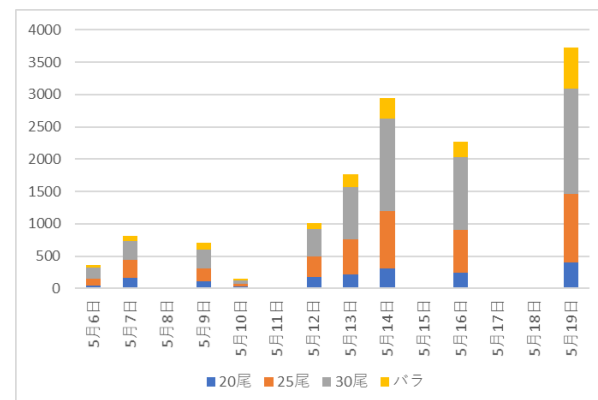


図 4. 金沢における生鮮スルメイカ入尾別水揚げ箱数
(2021 年)

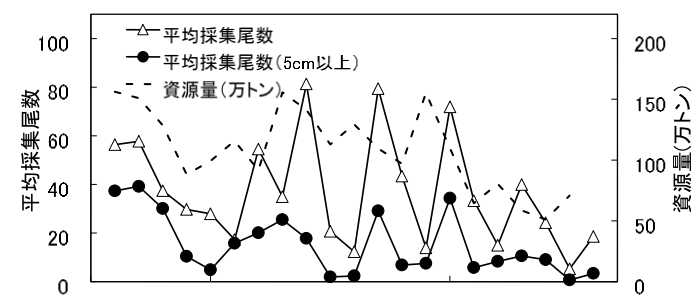


図 5. 新規加入量調査による平均採集尾数（全数および 5cm 以上）と推定資源量の経年変化 推定資源量は令和 2 年度スルメイカ秋季発生系群の資源評価に基づく（予報会議資料）。

